依頼者名 ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿ 様

耐 震 診 断

調査した診断者

【登録番号】＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

【 氏　名 】＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

滋賀県木造住宅耐震診断報告書　自己チェックリスト【一般診断法】

		診断員 チェック欄	判定者 チェック欄		診断員 チェック欄	判定者 チェック欄	
提出書類の確認		□	□	診断計算書	□	□	建物調査ｼｰﾄ・ﾋｱﾘﾝｸﾞｼｰﾄ
		□	□	1 現況平面図	□	□	診断員チェック済みの自己チェックシート
		□	□	現況写真	□	□	添付資料
建物調査シート・ヒアリングシート							
一般事項調査表		□	□	2 竣工年月、増築・改築・改修履歴			
		□	□	2 建築確認図書等の確認			
質問事項		□	□	2 受託時に指定された目標上部構造評点(0.8 or 1.0)			
《補強計画の意向》		□	□	3 申請者の上部構造評点の意向(0.8 or 1.0)			
《地盤》		□	□	4 造成前後の地盤の変化や建物振動の有無			
《基礎》		□	□	5 建物の基礎形式（RC、無筋、玉石、CB等）			
《軸組・老朽》		□	□	6 浸水、火災、地震等による損傷履歴や鉄骨梁使用の確認			
《多雪区域》		□	□	7 多雪区域の雪下ろしの習慣の有無			
建物調査表		□	□	8 調査年月日の記入			
		□	□	8 「つし」か「小屋裏」かの確認（つしは2階建扱い）			
		□	□	8 構法（在来軸組構法、伝統構法）の確認			
		□	□	8 屋根葺材料、外壁材料、内壁材料の確認			
		□	□	8 現場確認や図面に基づく筋かいの入力方法			
建物概要の入力	基本設定	□	□	9 計算モードは｢現況診断｣になっているか			
		□	□	10 診断方法(方法1 or 方法2)は適切か			
		□	□	11 「精算法ルート」が選択されているか			
		□	□	12 「モジュール」の設定長さは適切か。			
	建物概要	□	□	13 「建物名称」、「所在地」は間違いないか			
		□	□	14 「調査日」は記入したか。			
		□	□	14 「竣工年」は申込書や調査シートのデータと整合しているか			
		□	□	15 「建物の重さ」は「屋根仕様」と「壁仕様」の関係から適切に割り出されているか			
		□	□	16 「地域係数」「地盤割増」は間違いないか			
		□	□	17 「形状割増係数」は2階の短辺が4m未満の時は1.3、4m以上6m未満の時は1.15としているか			
		□	□	18 多雪区域の場合「県指定垂直積雪量」を記入したか。(雪下ろしの習慣がある場合、100cm)			
		□	□	19 「基礎仕様」は調査シートのデータと整合しているか			
		□	□	20 「床仕様」「主要柱径」「接合部仕様」は間違いないか			
		□	□	21 4m以上の吹き抜けの有無をチェックしたか			
壁入力		□	□	22 出窓や屋根が1階下屋と一体でない単独屋根の玄関ポーチまで外周線を参入していないか			
		□	□	23 掃出し型開口壁の開口高さは1,200mm以上でかつ垂壁は高さ360mm以上確保されているか			
		□	□	23 窓型開口壁の開口高さは600m～1,200mm、かつ垂壁は高さ360mm以上確保されているか			
		□	□	24 同一仕様の耐力壁を一括入力していないか（柱で挟まれた無開口壁毎に個別入力する）			
		□	□	25 2重張りの耐力を合算入力していないか（耐力は軸組に直接取付けられた面材のみ有効）			
		□	□	26 2種類を超える面材使用時は〔60 その他(別添仕様)〕を使って一体(合算)入力しているか			
		□	□	27 階段部において、横架材まで達していない壁を耐力壁として入力していないか			
		□	□	28 床の間などにおいて、造作的な柱や垂壁にも関わらず開口壁入力していないか			
		□	□	29 耐力のない開口壁は入力しないこと、また耐力の無い無開口壁は(0.0)で入力すること			
		□	□	30 原則として短壁は耐力(0.0)の無開口壁として入力されているか			
		□	□	31 一端が半柱の壁を耐力壁にしていないか			
		□	□	32 「不明壁」を残していないか			
劣化度による低減係数		□	□	33 存在する部位は、すべて存在点数をチェックしているか			
		□	□	34 劣化部位がある場合、劣化点数をチェックしているか			
総合評価		□	□	35 耐震診断依頼者名は間違いないか			
		□	□	36 【地盤】【地形】【基礎】のデータは調査シートと整合しているか			
		□	□	37 上部構造評点のうち最小の値が0.7未満か（0.7以上の場合補強案作成不要となる）			
		□	□	38 【その他注意事項】は診断結果を工学的に反映した内容になっているか			
		□	□	39 診断者名、所属、主催者名、講習修了番号、連絡先は正しく入力されているか			
現況平面図		□	□	40 Wee壁配置図の通芯番号を現況平面図にも使用しているか			
		□	□	41 重心・剛心の位置、偏心率は明記されているか			
		□	□	42 各室の内壁仕様が見やすく明記されているか			
		□	□	43 通し柱、筋かいがある場合、凡例で明記されているか			
		□	□	44 2階の平面位置が対角線等によって１階平面図に明示されているか			
		□	□	45 開口壁種別（0.3、0.6)が明記されているか（方法1)			
		□	□	46 柱の小径種別、垂壁(T)、垂壁・腰壁(TK)が明記されているか（方法2)			
		□	□	47 建物概要（屋根、外壁、基礎、接合部仕様）、劣化概要が明記されているか			
		□	□	48 建物の方位が明記されているか			
		□	□	49 現況写真の番号、撮影位置、撮影方向が明記されているか			
現況写真		□	□	50 プライバシーに十分配慮の上、診断の判断に必要な写真が添付されているか			

判定日　　判定者	判定者記入欄
/	

依頼者名 ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿様

補 強 計 算

調査した診断者

【登録番号】＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

【 氏　名 】＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

滋賀県木造住宅耐震改修工事概算書作成　自己チェックリスト【一般診断法】

	診断員チェック欄	判定者チェック欄		診断員チェック欄	判定者チェック欄	
提出書類の確認	□	□	補強計算書	□	□	診断員チェック済みの自己チェックシート
	□	□	1 補強計画平面図	□	□	概算報告書
	□	□	補強壁仕様書	□	□	その他添付資料
建物概要	□	□	2 計算モードは「補強計算」になっているか			
	□	□	3 「建物の重さ」「屋根仕様」「壁仕様」は診断時から変更があったか			
	□	□	4 「基礎仕様」「床仕様」「接合部仕様」は診断時から変更があったか			
補強壁入力	□	□	5 補強壁が「補強部材」の入力モードになっているか			
	□	□	6 補強壁の接合部仕様、基礎仕様が診断時のままになっていないか			
	□	□	7 1、2階の補強壁の位置を合わせられるか検討したか			
	□	□	8 壁基準耐力の合計が上限10.0を大きく上回るような過度の補強仕様となっていないか			
	□	□	9 補強しない壁でも、両隣が補強壁の場合は接合部仕様をアップしているか			
	□	□	10 釘止め筋かいのある壁を補強する場合、金物止めに変更出来るか検討したか			
	□	□	11 面材の2重張り補強としていないか（耐力は軸組に直接取付けられた面材のみ有効）			
	□	□	12 新設の壁を設置する場合、同時に布基礎も新設すべきか検討したか			
	□	□	13 壁補強に伴い、基礎が不安な場合は基礎補強を行ったか			
	□	□	14 入力壁数が多い場合に、安易に「土塗り壁」を削除していないか			
	□	□	15 「不明壁」を残していないか			
	□	□	16 他工法による壁補強の場合、新たな補強単価を設定したか			
	□	□	17 他工法による壁補強の補強単価や技術根拠が添付されているか			
耐力要素の配置等による低減係数(偏心率)	□	□	18 補強後の偏心率を0.15以内とするよう「剛心」の位置を調整したか			
劣化度による低減係数	□	□	19 診断時の低減係数が0.9未満の時、劣化改善後に上限値の0.9を越えていないか			
	□	□	19 診断時の低減係数が0.9以上の時、劣化改善後も低減係数が変わらないことを確認したか			
上部構造評点	□	□	20 「上部構造評点」の目標値が0.8以上または1.0(指定値)以上となっているか			
総合評価	□	□	21 耐震診断依頼者名は間違いないか			
	□	□	22 【地盤】【地形】のデータは診断時と変わっていないか			
	□	□	23 【基礎仕様】は基礎補強結果を反映したものになっているか			
	□	□	24 「上部構造評点」は目標値以上となっているか			
	□	□	25 【その他注意事項】は補強計算結果を工学的に反映した内容になっているか			
	□	□	26 診断者名、所属、主催者名、講習修了番号、連絡先は正しく入力されているか			
補強計画平面図	□	□	27 Wee壁配置図の通芯番号を補強平面図にも使用しているか			
	□	□	28 重心・剛心の位置、偏心率は明記されているか			
	□	□	29 補強計画の内容で平面図が作成されているか（単に現況平面図に補強壁の書入れは不可）			
	□	□	30 補強後の屋根、外壁、基礎の仕様が明記されているか			
	□	□	31 各補強壁が凡例や色塗り等を用いて申請者に分かり易く説明されているか			
	□	□	32 新設柱と新設建具は明記されているか			
	□	□	33 基礎補強の仕様と補強場所が明記されているか			
	□	□	34 劣化改善場所と改善内容が明記されているか			
補強壁仕様表	□	□	35 補強壁仕様表は作成したか			
	□	□	36 他工法の補強壁は補強壁仕様表に適切に反映されているか			
	□	□	37 各補強壁の入力データは補強壁仕様表に正確に反映しているか			
	□	□	38 補強位置は片面補強、両面補強に関わらずリストから選択しているか			
	□	□	39 長壁はリストから選択しているか			
概算報告書	□	□	40 申請者名、住宅所在地、構造・規模は間違いないか、作成日は記載されているか			
	□	□	41 改修前・改修後の上部構造評点および最小上部構造評点の目標値は間違いないか			
	□	□	42 補強計画のみの業務の場合、改修前の上部構造評点は診断当時のデータを転記しているか			
金物のみによる補強	□	□	43 壁数ではなく金物を設置する柱及び筋かいの本数で計上しているか			
補強計画の方針	□	□	44 該当する箇所に■のチェックがされているか			
補強計画の際に配慮した事項	□	□	45 「補強計画の方針」以外に配慮した事項があればこの欄にその内容が記入されているか			
	□	□	46 作成者氏名、診断員番号、建築士事務所名、連絡先電話番号は記入されているか			
	□	□	47 屋根改修、劣化改善の内容は計上したか			
	□	□	48 補強構面数が15以内の場合、少数構面割増は正常に自動計算されているか			

判定日　　判定者	判定者記入欄
/	